



主の降誕（夜半）（ルカ 2:1-14）

月が満ちて、神の愛があふれ出た

主の降誕おめでとうございます。新型コロナウイルスに振り回された一年でしたが、お生まれになった救い主は私たちの所に来てくださいました。しかも、「できるだけ近くに」来てくださいました。「近くに来てくださる」救い主を、福音朗読から感じて持ち帰りましょう。

「マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。」（2・6-7）今年のクリスマスに中田神父はこの箇所を選びました。特に「月が満ちて」という言葉に惹かれました。もちろんここでは、出産予定の月に達するということですが、満ち足り欠けたりする月の、「満月」も想像させます。

「満ち満ちた状態」から私が考えるのは、「あふれ出る」ということです。それは温泉が湧き出たり、地下水が湧き出たりする様子に似ているでしょうか。神の愛は、御子イエス・キリストとなって母マリアを通してあふれ、私たちに幼子として現れてくださった。私が今年伝えたいメッセージはこれです。

神の愛は、人間の救いという計画のためにあふれ出ました。全能の神が、無力な幼子になられました。あふれ出る愛がなければ、全能のお方が弱く小さな者になることは不可能でした。ヘロデが命を狙っています。最後は十字架にはりつけにされます。あふれ出る愛がなければ、これらの危険が待ち構えている世界に身を置くことは不可能なのです。

このあふれ出る神の愛を最初に受け取るのは誰でしょうか。それは、夜半ミサに参加している私たちです。神の愛が溢れ、わき出ている馬小屋に、私たちは導かれているからです。ミサを祝ったら、あらためて馬小屋に近づきましょう。あふれる様子は源泉に近づくことで確認できます。私たちも幼子を間近に見て、神のあふれ出る愛に触れましょう。

神の愛に触れたなら、私たちには使命が与えられます。それは、「私たちも神の愛に満たされたのだから、あふれ出る愛をより多くの人に届ける」ということです。今年は、健康に不安がある方のミサ参加を自粛しております。県外からの家族が帰省していたり、県外に出張などで出かけた方もミサの参加を自粛しております。これまでであれば問題なく参加できた人でも、参加できない場面が生じています。

何かの形で、こうした人とつながって、降誕の喜びを届けて欲しいのです。中田神父はミサが終わって一時間半もすれば、必ずミサの様子を録音で聞けるように準備します。ひらがなで「こうじ」それに神父を付けて、「こうじ神父」で検索すれば、ブログやホームページを見つけると思っています。これが私なりの、「神の愛があふれ出て、人々に届ける方法」です。皆さんも何か考えて、「神の愛はあふれ出て、私たちに届きました」この喜びをひとりでも多くの人に届けることにしましょう。